

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 74

2022年11月発行

子育て子育て支援事業

おやこ ひろば ほうぷ



今年度より「子育て子育て支援事業」として、『おやこ ひろば ほうぷ』を開催しています。法人社員によるボランティア活動で、今年度は偶数月の第三日曜日です。「助産師さんとあそぼ」の時には、ベビーマッサージ・手遊び・お母さんのリラックスタイム・読み聞かせのプログラムで実施しました。「保育士さんとあそぼ」の回では、暮らしの中で役立つものを作って、SDGSについて考えてみよう！と、タオルや折り紙などで親子創作をしました。もちろん、読み聞かせも行いました。親子でゆったりとした時間を過ごしていただけたと思います。今年度、残る2回は、以下の開催です。どなたでもご参加いただけますが、なるべく、お近くの方にご参加いただきたいです。

第5回 つくってあそぼ ～自然物でつくる Xmas オーナメント～

2022年12月18日(日) 10:30~12:00

大阪でうまれた綿などを使って、親子でクリスマス飾りを作りましょう。



第6回 みんなであそぼ ～おんがくひろば～

2023年2月19日(日) 10:30~12:00

音楽療法を学んでいる大学生による音楽会です。小さなお子さん向けの参加型の音楽タイムです。



参加費無料です。たくさん来ていただきたいのですが、密を避けるため、申込制です。以下まで、参加希望日と連絡先と親御さん・お子さんのお名前をご連絡ください。

申し込み・問い合わせ先：NPO 法人地域生活サポートネットほうぷ

TEL 06-6953-2665

MAIL houpu@r.river.sannet.ne.jp



子どもの居場所づくりに向けて

～地域生活サポートネットほうぶの新たな試み～

制度ありきではない、この地域で本当に必要とされる福祉活動とは？

昨今、「ヤングケアラー」という言葉が急速に広がり、注目を集めています。国や自治体の施策でも、「ヤングケアラー」とされる子どもたちや家族への支援制度を整えようという動きがあります。これまで光の当てられていなかった子どもたちの状況が、社会課題として取り上げられ、その改善のための施策が整えられていくのは大切であり、必要なことです。

一方で、いったんできあがった制度は、「その制度により支援を受ける対象者は誰か？」という法律上の線引きによって、結果として新たな「制度のはざま」と、その「はざま」で光を当てられることなく課題を抱え続ける人々の存在を生み出していきます。社会的な問題を、制度の改善や充実によって解決しようとする試みは、必然的にそのジレンマに直面します。

だからこそ私たちは、福祉サービス事業（放課後等デイサービス・障害児相談支援）の運営にのみとどまるのではなく、この地域で暮らしている多様な人々のあいだで、どんな困りごとがあり、どんな手助けを必要とする人がいるのか、その解決や改善のためにできることは何か、制度ありきではない福祉活動を模索していきたいと考えています。

箕面市・北芝地域フィールドワークからの学び

今年の夏、職員研修として、大阪府箕面市の通称「北芝」と呼ばれる地域一帯で先駆的なまちづくり・地域福祉活動に取り組む「NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝」に、現地視察を受け入れていただきました。「北芝」という地名は地図には載っていません。被差別部落としての歴史をもつその地域一帯が、古くからの慣習で「北芝」と呼ばれ、その地域に暮らす人々も愛着をもってその呼び名を使い続けてきました。北芝地域では、「差別の歴史を背負った地域で生まれ育った子どもたちに、いかに自尊感情をもって、社会に羽ばたいていけるよう、地域のおとなが支えていくのか」は、長年にわたる最重要の課題であり続けています。

北芝地域のまちづくりが全国的に広く知られるきっかけとなった取り組みとして、2011年からスタートした地域通貨「まーぶ」があります。経済的に苦しい家庭環境で暮らす子どもと、そうではない子どもとの間に深刻な「体験格差」が生じるとの問題意識から、子どもが地域でボランティア活動をすると「まーぶ」がもらえて、「まーぶ」を使って欲しいものが買えたり、地域のさまざまな体験イベントに参加でき、自分自身の興味関心で体験を広げていけるようにする仕組みです。今では「まーぶ」は北芝地域の枠をはるかに超えて、箕面市全域に流通し、市内のスーパー、コンビニでも日々の買い物で使えるほど認知されるようになりました。また、地域のために働いて稼いだ「まーぶ」で何をしたいか、子どもたち自身の夢をプレゼンする「こども夢コンテスト」という取り組みも開かれ、

実際にそのプレゼンをもとに熱気球を飛ばすイベントが開催されたこともあります。

北芝地域のまちづくりのキーワードは「つぶやきひろい」だと、視察担当者の方は教えてくださいました。地域のたったひとりの「つぶやき」を拾うところから、その地域で暮らす中での困りごとが見えてくる。既存の制度の活用で解決できない「つぶやき」は、解決のために必要なサービスや仕組みを住民同士で知恵を出し合って考え、協力してくれる人や組織とつながり、協働で形にしていくプロセスを繰り返してきました。そのようにして生み出したサービスや仕組みの数々はここでは紹介しきれないもので、視察に訪れた時点でも、これからの構想として、空き家のゲストハウスへのリノベーションや、放課後等デイサービスを卒業した青年の「働く場」づくりなどのプランが進行中とのことでした。

私たちは、地域で暮らす一人ひとりの「つぶやき」を拾うことができているのだろうか。そう自問してみれば、私たちが会おうことのできていない人、聞くことができている声、見つけることのできていない課題がまだまだ埋もれているはずだと感じます。「誰もが希望をもって暮らすことのできる地域社会」に少しでも寄与できる活動を展開していきたいとの思いを新たにしつつ、時間もお金も人手も限られているなかで、まず何をするのか？

「子どもの居場所」づくりへの思いとこれから

3年前の6月、法人の設立15周年記念イベントとして、「子どもの居場所づくりに向けて」をテーマに、フォーラムを開催しました。それ以降、突如あらわれた新型コロナウイルスへの対応、施設の全面建て替えなど、目の前の課題をこなしていくだけで四苦八苦していましたが、「子どもの居場所」への問題意識はずっと持ち続けてきました。

この3年のあいだに、子ども食堂が全国各地で増え続け、社会全体でも広く知られる存在となりました。旭区でもたくさん子ども食堂が開かれています。必ずしも経済的に困っていたり、食事もとれないといった状況にある子どもや家族を対象とする場所だけではありません。来たい人は誰でも（子どもでなくても）参加してよいとしているオープンな子ども食堂の方が多数派です。「子どもの貧困」対策としてではなく、「いっしょに食べる」営みをとおして、地域のいろいろな世代の人々が集い、つながりを生み出していく場であることにこそ、子ども食堂の可能性があるという見解を述べる人もいます。

施設のリニューアルから1年がたち、改めて、この地域で必要とされる「子どもの居場所」とはなんだろうかと考えをめぐらせています。現にこの地域で暮らす子どもの声を抜きにして、「子どもの居場所」のイメージが描けるはずもありません。とはいえ、子どもの抱える背景はさまざまで、しんどい状況にある子ども、孤立している子どもほど、出会うのは難しく、「つぶやき」を拾うこともままなりません。そこで、まずは、子どもの「つぶやき」にもっとも身近に触れる機会の多いおとなである地元の小・中学校の先生から、「こんな困りごとを抱えている子どもがいる」「こんな場所やサポートが地域のなかにあつたらいい」という意見を聴かせていただくことから始めました。来年の今ごろには、会報を通じて、「子どもの居場所」の活動報告ができるようになればと思っています。

(地域生活サポートネットほうば 渡邊充佳)

放課後等デイサービス「楽童ほうぶ」報告

昨年度末、楽童ほうぶ利用の保護者向けアンケート調査をしました。その中で、「こどもILP」（自立生活プログラム・こども版）に即した体験プログラムとして、どんな内容に関心があるかたずねたところ、〈衣〉〈食〉〈住〉〈働〉の4領域のうち、とくに〈働〉への関心を持たれている保護者の方が多いことがわかりました。

そこで、2022年度は、「しごと体験」に力を入れていこうと、年間スケジュールを組みました。隔月で「ほうぶ商店」（駄菓子・雑貨屋&紙芝居）を開催し、6月には3年ぶりに「カフェほうぶ」を復活させたのもその一環です。そして、コロナ禍で各機関に協力をお願いすることがままならなかったこの2年間を経て、ようやく夏休み期間中に地域のさまざまな現場に出向いての「しごと体験」の再開にこぎつけることができました。決してコロナ禍が収束したとはいえない状況のなかでも、子どもに体験の機会を与えようと快く受け入れてくださった旭区役所・旭消防署・あきにれ（吹田市生活介護事業所）の皆様には本当に感謝の思いでいっぱいです。改めて、お礼申し上げます。

地域に出向いての「しごと体験」は、いわゆる「職業訓練」のようなものではありません。ほんのさわりの体験です。しかし、貴重な体験です。自らの「しごと体験」に加えて、子どもがおとなの働く姿に触れる機会がきわめて限られている現状において、おとなが自らに与えられた役割を果たそうと一生懸命働いている現場に身を置いてみることに大切な意味があると思います。「社会はみんなの仕事でできている」のですから。

こどもILP～しごと体験（職場体験学習）～



- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 8月 8日（土） | 活動場所：あきにれ | 参加者：子ども2名 |
| 8月10日（土） | 活動場所：旭区役所 | 参加者：子ども2名 |
| 8月17日（土） | 活動場所：旭消防署 | 参加者：子ども2名 |
| 8月18日（土） | 活動場所：旭消防署 | 参加者：子ども2名 |
| 8月19日（土） | 活動場所：旭区役所 | 参加者：子ども3名 |

夏休みに、中学生以上を対象として「しごと体験」を実施しました。スタッフと大学生のアルバイトやボランティアが同行しました。2時間ほどの短い時間ではありましたが、子どもたちが社会の担い手として働くことを現場でじかに体験できる貴重な機会をつくることができました。学生さんたちにとっても貴重な体験となったことでしょう。

「あきにれ」では、100円ショップで販売されているピルケースボックスの組み立て作業に取り組みました。旭区役所では、福祉課や保健子育て課の窓口で使用する書類のホチキス止めや折り作業を体験させていただきました。旭消防署では、消火器の使用、消火栓の開け閉め、消防服の着脱などの体験をさせていただきました、消防車の前で記念撮影までさせていただきました。



リサイクルショップほうぶ



9月17日(土) 参加者：子ども15名 ボランティア6名
夏休み期間中から、近隣の方々や、保護者の皆さんに「バザー用品収集」のお願いをして商品を準備し、値付け作業、周辺地域でのビラ配りなどを経て、この日、「リサイクルショップほうぶ」を開店しました。オーニングの下で行う準備をしていたのですが、台風接近のため、急遽、室内にシートを敷いて行いました。春の「ほうぶ商店」「カフェほうぶ」に続き、多くの方にご来店いただきました。子どもたちも、レジ係、商品の袋詰め係、手指消毒よびかけ係、宣伝・呼び込み係などそれぞれの持ち場で役割を果たしました。

＜ボランティアの感想から＞

- ・ 今回は、前回と違って、子どもたちに声をかけながらお店をすることができました。少しやる気がなくなった子にも、「お客さん来たよ」と言ったら戻って来てくれました。
- ・ 今回の活動を通して、子どもたちの楽しんでいる姿や、仕事はしっかりときりかえてやっている姿を見てすごくよくできているなと思いました。



防災学習・地域清掃ボランティア

10月 1日(土) 参加者：子ども11名 社会人ボランティア1名
防災についての学習機会を定期的につくっています。今回は「地震への備え」をテーマに、地震発生時の対応などに関する簡単なクイズをしてから、3グループに分かれて、ほうぶの建物内の安全チェックをしました。「ここから本が落ちてくるかも」「窓ガラスが割れるかも」など、地震発生時に離れたほうがよい箇所をリストアップしていきました。最後は、各グループから代表者が「地震のときに危ない場所」について発表しました。

防災学習の後、楽童ほうぶのある町会エリアの清掃活動をしました。町会から掃除道具をお借りして、グループに分かれて吸い殻やペットボトルなどのゴミを拾いました。道行く人に「ありがと」と言われて、うれしくて張り切っていた子もいました。面倒くさがるかと思いきや、遊び感覚だったのか、最後にはみんな熱心に取り組んでいました。

グループワーク

- 8月27日(土) 参加者：子ども11名
- 9月10日(土) 参加者：子ども12名
- 10月 8日(土) 参加者：子ども9名



月に1回、土曜日活動として、思いを伝える／聴くことの練習として取り組んでいます。8月は「夏の思い出を振り返る」「ハロウィンに何したい?」、9月は絵本『カラーモンスター』を用いて、「ピンク色のモンスターはどんな気持ち?」、10月は「私の好きな遊び」というテーマで、各自の意見や考えを順番に発表しました。お題の内容も、子どもたちの実体験や今後の活動につながるものを設定し、ハロウィンについて子どもたちから出た意見は、実際に10

月末のハロウィンパーティーのプログラム内容に反映しました。

私たちのグループワークは、修復的対話という考え方に基づくトーキングサークルの手法を参考にして始めましたが、同じように輪になって座り、一人ひとりの考えを出し合い、聞き合う取り組みとして、「p4c」(Philosophy for Children: こども哲学) や、「サークルタイム」などの試みが保育・教育現場でも注目されています。いずれも、対話による問題解決、多様な立場を尊重する姿勢を学ぶことを大切にしているようです。さまざまな試みに学びつつ、私たちの取り組みもアップデートを重ねていきたいと考えています。

大学生ボランティアによる音楽会

8月 1日(月) 参加者: 子ども11名 千里金蘭大の学生さんたち

9月24日(土) 参加者: 子ども8名 ボランティア2名

10月15日(土) 参加者: 子ども13名 ボランティア2名

8月1日は千里金蘭大学の「子ども音楽実践演習」受講生によるスペシャルコンサートとして、「真夏の音楽会」と題してジブリ映画の主題歌を中心にした演奏が披露されました。映画のキャラクターに扮した学生さんによる寸劇なども交えて、夏の楽しい思い出ができるようにと工夫をこらしてくれました。

9月・10月は、武庫川女子大学音楽学部の学生有志による音楽会を開催しました。9月からは世代交代で新しい学生さんが来てくれました。これまでのプログラムの流れを受け継ぎつつも、昔ながらの楽曲を使ったプログラムに挑戦して、新たな試みにも取り組んでくれました。学生さんそれぞれのカラーを打ち出して、子どもたちと楽しい時間を作ってほしいと思います。



ハロウィンパーティー



10月29日(土) 参加者: 子ども15名 社会人ボランティア2名
今年のハロウィンパーティーは、8月のグループワークで意見の多かった「おばけやしき」「おかしづくり」を反映して、プログラムを企画しました。いつもボランティア活動をしてれる大阪経済大学が学祭で、学生ボランティアの参加はなしでした。

ハロウィンパーティーを邪魔してきたカボチャ魔女(ほうぶの高校生メンバーが扮する)に立ち向かうというストーリーのもと、ほうぶ内に設営した「おばけやしき」「ゴーストバスターズ」をクリアすれば魔女に対抗する魔法のメダルがもらえるという設定で、子どもたちはそれぞれのアトラクションを体験しました。アトラクションタイム後、有志メンバーによるステージ発表をしました。最後に、「実はパーティーがうらやましかった」というカボチャ魔女も仲間入りし、子どもたちは、クッキーにホイップクリームやカラーチョコレートで思い思いの飾りつけをして、スペシャルおやつを楽しみました。



● 法人内の活動報告 ●

- 8月11日(木) 職員研修「箕面北芝」フィールドワーク
- 9月10日(金) 虐待防止委員会の開催
- 10月11日(火) 職員研修「あさひ学び舎」について
- 10月12日(水) 「人の思いを引き出すインテーク面接力」研修受講
- 10月14日(金) シェアハウス入居者の個人将来計画ワークショップを開催
- 10月15日(土) 職員研修「ここからかたる」心と体・多様性
- 10月18日(火) 旭区子ども食堂ネットワーク会議にニーズ調査のため参加
ブックスタート「親子で一緒に絵本を楽しむためにできること」研修受講
- 10月19日(火) 「子どものセンス・オブ・ワンダーから学ぶ」研修受講
虐待防止委員会の開催

● 地域活動報告 ●

- 8月3日(水) 地域活動協議会 福祉部会(ほうぶ)
- 8月21日(日) おやこひろば ほうぶ「保育士さんとあそぼ〜つくってあそぼ Part1〜」(ほうぶ)
- 8月27日(土) 旭区地域自立支援協議会 ことども部会主催「子育て応援セミナー」(旭区役所)
- 9月2日(金) あさひの輪(旭区子育て支援団体の集まり) 定例会(旭区社協)
- 9月12日(月) 和んで座談会実行委員会(旭区役所)
- 9月13日(火) ブックスタート開催(1組の親子さんの参加がありました)(ほうぶ)
- 9月14日(水) 旭区地域自立支援協議会 ことども部会(旭区役所)
- 9月15日(木) 清水地域子育てボランティアグループ会議(清水小学校)
- 9月16日(金) 子ども情報研究センター理事会(オンライン)
- 9月21日(水) 旭区地域自立支援協議会 本会定例会(旭区役所)
- 10月14日(金) 旭区地域自立支援協議会しごと部会物販活動に参加(千林ふれあい館)
- 10月16日(日) おやこひろば ほうぶ「助産師さんとあそぼ〜ベビーマッサージ Part2〜」(ほうぶ)
- 10月19日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談支援部会(旭区役所)
- 10月23日(日) 旭区オータムチャレンジスポーツに参加(旭スポーツセンター)
- 10月27日(木) 旭区事業所連絡会(児童)の研修会に参加(旭区役所)
和んで座談会実行委員会(旭区役所)

前号(8月・73号)の会報を編集後、コロナ感染をしてしまいました。自宅療養の最終日にぎっくり腰をやってしまい、結局、2週間ほど職場を離れました。自宅に籠り、家事と本と映画で過ごしました。ほとんど休みなく働いていたので、療養期間は私にとって贅沢な時間を感じました。対応が早かったのも他の人に感染を広げることもなく、寝込むこともなく軽症ですんだのですが、出勤再開後、2か月以上も咳と痰と鼻炎症状が続いて困りました。いろいろな制限が解除されていますが、まだまだ油断することなく感染対策をしながら、活動は前向きに取り組んでいきたいと思っております。

